〈ウサギとぼくのこまった毎日〉トミーは、学校のウサギ、ユッキーが大きらい。ところが、そのユッキーを妹のアンジーが連れて帰って家であずかることになり、それからは悪いことばかり。ユッキーにもアンジーにも、もううんざりです！ユッキーはのろわれたウサギなの？トミーはどうなる？最後はジーンとする、動物ずきの人にオススメのお話です。

〈ウサギとぼくのこまった毎日〉トミーは、学校のウサギ、ユッキーが大きらい。ところが、そのユッキーを妹のアンジーが連れて帰って家であずかることになり、それからは悪いことばかり。ユッキーにもアンジーにも、もううんざりです！ユッキーはのろわれたウサギなの？トミーはどうなる？最後はジーンとする、動物ずきの人にオススメのお話です。

〈桜の木の見える場所〉もうすぐ10歳になるマファルダは目の難病にかかっている。少しずつ見えなくなり、いつか失明してしまう。できなくなることが増えていくのが怖かったが、仲よくなった用務員さんの勧めで「とても大切なことのリスト」を作り、力強く前に進んでいく。同じ病気にかかっている作者自身の経験をもとに書かれた物語。

〈桜の木の見える場所〉もうすぐ10歳になるマファルダは目の難病にかかっている。少しずつ見えなくなり、いつか失明してしまう。できなくなることが増えていくのが怖かったが、仲よくなった用務員さんの勧めで「とても大切なことのリスト」を作り、力強く前に進んでいく。同じ病気にかかっている作者自身の経験をもとに書かれた物語。

2

この本を選んだ翻訳者

宇野和美（翻訳者）

『わたしはフリーダ・カーロ』（ウリア・くっさ、花伝社）、『あしたのための本』シリーズ『民主主義は誰のもの？』『独裁政治とは？』『社会格差はどこから？』『女と男のちがいって？』（いずれもクラーケンルーア、あかね書房）、『しあわせなとまどの地図』（フランス・ヌニョ、ほるぷ出版）、『アルバの名前がながいわけ』（ファナ・ヴルチャネ＝ルニ、ストブリッジ書房）、『ウニとクジラ』（ダスティ、偕成社）など、スペイン語圏のユニークな作品を多数翻訳。開店から14年になる、スペイン語の子どもの本のネット書店〈ミランノ洋書店〉も営む。

2

この本を選んだ翻訳者

宇野和美（翻訳者）

『わたしはフリーダ・カーロ』（ウリア・くっさ、花伝社）、『あしたのための本』シリーズ『民主主義は誰のもの？』『独裁政治とは？』『社会格差はどこから？』『女と男のちがいって？』（いずれもクラーケンルーア、あかね書房）、『しあわせなとまどの地図』（フランス・ヌニョ、ほるぷ出版）、『アルバの名前がながいわけ』（ファナ・ヴルチャネ＝ルニ、ストブリッジ書房）、『ウニとクジラ』（ダスティ、偕成社）など、スペイン語圏のユニークな作品を多数翻訳。開店から14年になる、スペイン語の子どもの本のネット書店〈ミランノ洋書店〉も営む。

1

この本を選んだ翻訳者

赤塚まり子（児童文学翻訳家）

やまねこ翻訳クラブ会員。主な訳書『ダレタ・トッペンリ』（ウィケンティ・ラナ・ラッツ、金の星社）、『世界食べものツアー』（フェリシティ・ヴェルバ、河出書房新社）、『調ダルーブ社静雄料理教育研究所監修、中島知子共訳』、『ケルビルと仲間たち児童労働にたちむかった人々』（ステサン・クーケリン、長野徹共訳、小峰書店）。やまねこ翻訳クラブのメールマガジン「月刊児童文学翻訳」で「お東子の旅」を担当中（掲載は不定期）。

http://www.yamaneko.org/mgzn/corner/cake.htm

1

この本を選んだ翻訳者

赤塚まり子（児童文学翻訳家）

やまねこ翻訳クラブ会員。主な訳書『ダレタ・トッペンリ』（ウィケンティ・ラナ・ラッツ、金の星社）、『世界食べものツアー』（フェリシティ・ヴェルバ、河出書房新社）、『調ダルーブ社静雄料理教育研究所監修、中島知子共訳』、『ケルビルと仲間たち児童労働にたちむかった人々』（ステサン・クーケリン、長野徹共訳、小峰書店）。やまねこ翻訳クラブのメールマガジン「月刊児童文学翻訳」で「お東子の旅」を担当中（掲載は不定期）。

http://www.yamaneko.org/mgzn/corner/cake.htm

〈図書館にいたユニコーン〉物語や本の力がもたらす奇跡を感動的に描いた作品。本嫌いの少年トマスは、いやいや入った図書館で、不思議なユニコーンとお話の世界に出会う。司書の女性への憧れ、戦争、家族の絆――イギリスを代表する児童文学作家、モーパーゴの静かで気高い文体に寄り添うブライズのあたたかい挿絵。ぜひお楽しみください！

この本を選んだ翻訳者

おぐからゆうこ（児童文学翻訳家）

国際基督教大学（ＩＣＵ）語学科卒業。出版社勤務の後、ドイツ留学を経て、子どもの本の翻訳に携わる。訳書に『風をしずめたネコのほうけん』（徳間書店）、『かわいいコキブリのおんなのこ メイベルのほうけん』（福音館書店）、『ルーシー』（主婦の友社）、『おばあちゃん、ぼくにできることあるの？』（偕成社）、『くまくん、じゅんびはオーケーかい？』（ファトクロワ・ガッシュ社）など。

おぐからゆうこ（児童文学翻訳家）

国際基督教大学（ＩＣＵ）語学科卒業。出版社勤務の後、ドイツ留学を経て、子どもの本の翻訳に携わる。訳書に『風をしずめたネコのほうけん』（徳間書店）、『かわいいコキブリのおんなのこ メイベルのほうけん』（福音館書店）、『ルーシー』（主婦の友社）、『おばあちゃん、ぼくにできることあるの？』（偕成社）、『くまくん、じゅんびはオーケーかい？』（ファトクロワ・ガッシュ社）など。

はじめての海外文学
vol.6
児童書部
Book

〈図書館にいたユニコーン〉物語や本の力がもたらす奇跡を感動的に描いた作品。本嫌いの少年トマスは、いやいや入った図書館で、不思議なユニコーンとお話の世界に出会う。司書の女性への憧れ、戦争、家族の絆――イギリスを代表する児童文学作家、モーパーゴの静かで気高い文体に寄り添うブライズのあたたかい挿絵。ぜひお楽しみください！

この本を選んだ翻訳者

おおつかゆのり（翻訳家）

子どもとともに子どものための本がすき。英語の本を翻訳したり、日本語の本を書いたりしています。おはなし会やボーイスカウトなどで、子どもがいるところに出没します。訳書は『モルモットクトルー・ボンドが物語』『ホルガとボリスとなかまたち』（いずれも ティクトル・ボンドが物語）、『死について考える本』（メリー＝エレン・ウィルコックス作、あかね書房）など、著書は『元号ってなんだろう 大化から令和まで』（宮瀧交二監修、藤原ヒロコ絵、岩崎書店）など。

おおつかゆのり（翻訳家）

子どもとともに子どものための本がすき。英語の本を翻訳したり、日本語の本を書いたりしています。おはなし会やボーイスカウトなどで、子どもがいるところに出没します。訳書は『モルモットクトルー・ボンドが物語』『ホルガとボリスとなかまたち』（いずれも ティクトル・ボンドが物語）、『死について考える本』（メリー＝エレン・ウィルコックス作、あかね書房）など、著書は『元号ってなんだろう 大化から令和まで』（宮瀧交二監修、藤原ヒロコ絵、岩崎書店）など。

はじめての海外文学
vol.6
児童書部
Book

〈図書館にいたユニコーン〉物語や本の力がもたらす奇跡を感動的に描いた作品。本嫌いの少年トマスは、いやいや入った図書館で、不思議なユニコーンとお話の世界に出会う。司書の女性への憧れ、戦争、家族の絆――イギリスを代表する児童文学作家、モーパーゴの静かで気高い文体に寄り添うブライズのあたたかい挿絵。ぜひお楽しみください！

〈ジュディ・モードはごきげんななめ〉ジュディ・モードって、気分がいろんなモードにきりかわるんだ。なまいきな弟へのいたずらが成功すれば、ごきげんモード。弟に自慢されたときには、ふきげんモード。でも、ジュディは楽しいことをみつける天才だから、毎日が基本きらきらであふれてる。つまり、とっても小学3年生ってことなんだ。

〈ジュディ・モードはごきげんななめ〉ジュディ・モードって、気分がいろんなモードにきりかわるんだ。なまいきな弟へのいたずらが成功すれば、ごきげんモード。弟に自慢されたときには、ふきげんモード。でも、ジュディは楽しいことをみつける天才だから、毎日が基本きらきらであふれてる。つまり、とっても小学3年生ってことなんだ。

この本を選んだ翻訳者

田中亜希子（翻訳者）

訳書に絵本『コッケモーモー！』（ジョリエット・ダヴァス＝コンシデ、徳間書店）、児童読み物「ひみつの妖精パウス」シリーズ（ケリー・クタイン、ポプラ社）、YA『炎に恋したお姫』（ジェニー・ヴァレンタイン、小学館）、『目覚めの森の美女 森と水の14の物語』（ディアドラ・サリヴァン、東京創元社）など。読み聞かせの活動も行っている。

この本を選んだ翻訳者

田中亜希子（翻訳者）

訳書に絵本『コッケモーモー！』（ジョリエット・ダヴァス＝コンシデ、徳間書店）、児童読み物「ひみつの妖精パウス」シリーズ（ケリー・クタイン、ポプラ社）、YA『炎に恋したお姫』（ジェニー・ヴァレンタイン、小学館）、『目覚めの森の美女 森と水の14の物語』（ディアドラ・サリヴァン、東京創元社）など。読み聞かせの活動も行っている。

この本を選んだ翻訳者

式富博子（児童文学翻訳者）

訳書に『サイレント・トランペット 走るのニガテなぼくのランニング日記』（ダイアナ・ハーモン・アシャー、評論社）、『セアン・レター・ワーズ』（キム・ヌレ・ハター、評論社）、「動物探偵ミア」シリーズ（ダイアナ・キンブリン、ポプラ社）、『ニュー・ヨーク・ウィンター・ファーストレディ ジャクリーン・ケネディの忘れられた一年』（ナタリー・ジャン・ブレーズ、ブレーベン館）など。やまねこ翻訳クラブ会員。読書採値作文コンクール事務局メンバー。

この本を選んだ翻訳者

式富博子（児童文学翻訳者）

訳書に『サイレント・トランペット 走るのニガテなぼくのランニング日記』（ダイアナ・ハーモン・アシャー、評論社）、『セアン・レター・ワーズ』（キム・ヌレ・ハター、評論社）、「動物探偵ミア」シリーズ（ダイアナ・キンブリン、ポプラ社）、『ニュー・ヨーク・ウィンター・ファーストレディ ジャクリーン・ケネディの忘れられた一年』（ナタリー・ジャン・ブレーズ、ブレーベン館）など。やまねこ翻訳クラブ会員。読書採値作文コンクール事務局メンバー。

〈木はえらい イギリス子ども詩集〉 子どもの日常をユーモラスに描いた英語の詩を、詩人の谷川俊太郎さんと川崎洋さんが72編集めて訳しました。『なんで学校に行かなきゃならないの』『るっせえなあ』『弟は頭痛の種』など、6人の現代英国詩人による詩は、大人が書いたのに子どものつぶやきそのもの。『木はえらい』は心にしみます。あとはほぼ、笑えます！

〈木はえらい イギリス子ども詩集〉 子どもの日常をユーモラスに描いた英語の詩を、詩人の谷川俊太郎さんと川崎洋さんが72編集めて訳しました。『なんで学校に行かなきゃならないの』『るっせえなあ』『弟は頭痛の種』など、6人の現代英国詩人による詩は、大人が書いたのに子どものつぶやきそのもの。『木はえらい』は心にしみます。あとはほぼ、笑えます！

〈ハロー、ここにいるよ〉 おとなしい少年、耳の聞こえない少女、自称霊能者の少女、いじめっこの少年。11～12歳の4人の視点から物語が展開します。ある日、近所の森で4人がかかわりあい、おそろしいことがおこって……。運命や偶然、昔話やユーモアや希望がまじりあった、少し不思議な友情の話。静かに、じっくり読む人におすすめします。

〈ハロー、ここにいるよ〉 おとなしい少年、耳の聞こえない少女、自称霊能者の少女、いじめっこの少年。11～12歳の4人の視点から物語が展開します。ある日、近所の森で4人がかかわりあい、おそろしいことがおこって……。運命や偶然、昔話やユーモアや希望がまじりあった、少し不思議な友情の話。静かに、じっくり読む人におすすめします。

〈ゴースト〉「あいにく、自分から逃げきれるほど足が速いやつなんて、だれもいねえんだよ」陸上クラブの監督や、母ちゃん、そして友人たち。温かい人たちに支えられて、ゴーストは、逃げるためではなく前へ進むために走りだす。

この本を選んだ翻訳者

なないとうふみこ（翻訳者）

訳書に『最後の竜殺し』（シャネル・ワォーレー、竹書房）、『シェリダが糸をつむいだ日』（リンダ・スー・パーク、徳間書店）、『ゴースト』（ジェイソン・レノルズ、小峰書店）、『貸出禁止の本をすくえ！』（ケラン・ダウング、ほるぷ出版）、『ホームズ〈ホームズ〉からロッタ〈ロッタ〉』（ケイト・ディカミロ、ポプラ社）、『ホームズ〈ホームズ〉からロッタ〈ロッタ〉』（ケイト・ディカミロ、共訳、作品社）などがある。やまねこ翻訳クラブ会員。読書推進作文コンクール事務局メンバー。

〈ゴースト〉「あいにく、自分から逃げきれるほど足が速いやつなんて、だれもいねえんだよ」陸上クラブの監督や、母ちゃん、そして友人たち。温かい人たちに支えられて、ゴーストは、逃げるためではなく前へ進むために走りだす。

この本を選んだ翻訳者

なないとうふみこ（翻訳者）

訳書に『最後の竜殺し』（シャネル・ワォーレー、竹書房）、『シェリダが糸をつむいだ日』（リンダ・スー・パーク、徳間書店）、『ゴースト』（ジェイソン・レノルズ、小峰書店）、『貸出禁止の本をすくえ！』（ケラン・ダウング、ほるぷ出版）、『ホームズ〈ホームズ〉からロッタ〈ロッタ〉』（ケイト・ディカミロ、共訳、作品社）などがある。やまねこ翻訳クラブ会員。読書推進作文コンクール事務局メンバー。

〈やかまし村の子どもたち〉リンドグレーンと言えば、「長くつ下のピッピ」が有名ですが、こちらのシリーズのなんでもないほのぼのとした毎日は何度読んでも飽きません。すんなり物語に入っていけるので、はじめての読書体験にふさわしいと思います。

この本を選んだ翻訳者

田辺千幸（翻訳者・翻訳家）

ロンドン大学卒業。主な訳書は名探偵ロッキー・ストロー、竹書房）、『ジェリーフィッシュ・ハイ』（ジェイソン・ハイ、小峰書店）、『ゴーストバスターズ』（ケイト・ディカミロ、ほるぷ出版）、『ホーム・ズ〈ホームズ〉からロッタ〈ロッタ〉』（ケイト・ディカミロ、共訳、作品社）などがある。やまねこ翻訳クラブ会員。読書推進作文コンクール事務局メンバー。

〈やかまし村の子どもたち〉リンドグレーンと言えば、「長くつ下のピッピ」が有名ですが、こちらのシリーズのなんでもないほのぼのとした毎日は何度読んでも飽きません。すんなり物語に入っていけるので、はじめての読書体験にふさわしいと思います。

この本を選んだ翻訳者

田辺千幸（翻訳者・翻訳家）

ロンドン大学卒業。主な訳書に「家政婦は名探偵」シリーズ（東京創元社）、「英国王妃の事件ファイル」シリーズ（原書房）、「銃の魔道士」シリーズ（早川書房）、『サイレンス』（ハーパーコリンズ）、なども。

〈ミス・マープルの名推理 予告殺人〉 ミス・マープルというすてきな老婦人が解決するクリスティの作品。ルビがついて挿絵も入っているジュニア向けシリーズので、小学生でも3年生くらいから読めます。クリスティの入門としてぜひ。気に入ったら、他の作品も読んでみてください。

この本を選んだ翻訳者

羽田詩津子（翻訳家）

スチュアート・ムーディ『ゾンビ学入門』（ハヤカワ文庫）、『ゾンビ学実践』（ハヤカワ文庫）、『ゾンビ学応用』（ハヤカワ文庫）、『ゾンビ学教本』（ハヤカワ文庫）、『ゾンビ学大全』（ハヤカワ文庫）、

この本を選んだ翻訳者

増田まもる（英米文学翻訳家）

宮城県生まれ。早稲田大学第一文学部文芸科中退。季刊NWSF誌に掲載したシャドウ・ジャンキーズの「レンズの眼」で翻訳家デビュー。主な訳書は『夢幻会社』『楽園への疾走』『ミレニアム・ビートル』（いずれもJ.G.バラード、東京創元社）、『ダブル・モールド』『隠し部屋を探索して』（ケイト・ウィルヘルム、東京創元社）、『ブラッドワーミング』（ジョージ・R.R.マーティン、ハヤカワ・SF・シリーズ）、『ブラッドチャイルド』（シェリ・S.テッド、早川書房）、『もしも月がなかったら』（ノア・ジャンシー、早川書房）、『ブラザサム・エンジンズ』（ジョージ・R.R.マーティン、東京創元社）、『女の国の門』（シェリ・S.テッド、早川書房）、『ブラザサム・エンジンズ』（ノア・ジャンシー、早川書房）、『もしも月がなかったら』（ノア・ジャンシー、早川書房）、『女の旅』（ニール・F.カミンズ、東京書籍）。

増田まもる（英米文学翻訳家）

宮城県生まれ。早稲田大学第一文学部文芸科中退。季刊NWSF誌に掲載したシャドウ・ジャンキーズの「レンズの眼」で翻訳家デビュー。主な訳書は『夢幻会社』『楽園への疾走』『ミレニアム・ビートル』（いずれもJ.G.バラード、東京創元社）、『ダブル・モールド』『隠し部屋を探索して』（ケイト・ウィルヘルム、東京創元社）、『ブラッドワーミング』（ジョージ・R.R.マーティン、ハヤカワ・SF・シリーズ）、『ブラッドチャイルド』（シェリ・S.テッド、早川書房）、『もしも月がなかったら』（ノア・ジャンシー、早川書房）、『ブラザサム・エンジンズ』（ノア・ジャンシー、早川書房）、『女の国の門』（シェリ・S.テッド、早川書房）、『ブラザサム・エンジンズ』（ノア・ジャンシー、早川書房）、『もしも月がなかったら』（ノア・ジャンシー、早川書房）、『女の旅』（ニール・F.カミンズ、東京書籍）。

この本を選んだ翻訳者

増田まもる（英米文学翻訳家）

宮城県生まれ。早稲田大学第一文学部文芸科中退。季刊NWSF誌に掲載したシャドウ・ジャンキーズの「レンズの眼」で翻訳家デビュー。主な訳書は『夢幻会社』『楽園への疾走』『ミレニアム・ビートル』（いずれもJ.G.バラード、東京創元社）、『ダブル・モールド』『隠し部屋を探索して』（ケイト・ウィルヘルム、東京創元社）、『ブラッドワーミング』（ジョージ・R.R.マーティン、ハヤカワ・SF・シリーズ）、『ブラッドチャイルド』（シェリ・S.テッド、早川書房）、『もしも月がなかったら』（ノア・ジャンシー、早川書房）、『ブラザサム・エンジンズ』（ノア・ジャンシー、早川書房）、『女の国の門』（シェリ・S.テッド、早川書房）、『ブラザサム・エンジンズ』（ノア・ジャンシー、早川書房）、『もしも月がなかったら』（ノア・ジャンシー、早川書房）、『女の旅』（ニール・F.カミンズ、東京書籍）。

増田まもる（英米文学翻訳家）

宮城県生まれ。早稲田大学第一文学部文芸科中退。季刊NWSF誌に掲載したシャドウ・ジャンキーズの「レンズの眼」で翻訳家デビュー。主な訳書は『夢幻会社』『楽園への疾走』『ミレニアム・ビートル』（いずれもJ.G.バラード、東京創元社）、『ダブル・モールド』『隠し部屋を探索して』（ケイト・ウィルヘルム、東京創元社）、『ブラッドワーミング』（ジョージ・R.R.マーティン、ハヤカワ・SF・シリーズ）、『ブラッドチャイルド』（シェリ・S.テッド、早川書房）、『もしも月がなかったら』（ノア・ジャンシー、早川書房）、『ブラザサム・エンジンズ』（ノア・ジャンシー、早川書房）、『女の国の門』（シェリ・S.テッド、早川書房）、『ブラザサム・エンジンズ』（ノア・ジャンシー、早川書房）、『もしも月がなかったら』（ノア・ジャンシー、早川書房）、『女の旅』（ニール・F.カミンズ、東京書籍）。

この本を選んだ翻訳者

麥木晃子（翻訳家）

北欧の児童書を中心に、翻訳を手掛ける。訳書に『三ルとのふしぎな旅』（セルマ・ラガルフ、ほるぷ出版）、『おじいちゃんの口笛』（ウルフ・ラタルク、ほるぷ出版）、『おじいちゃんがオオカミになったわけ』（キム・フォッグス・オーカソン、あすなろ書房）、『長くつ下のピッピ』（アストリッド・リンドグレーン、岩波書店）など。

麥木晃子（翻訳家）

北欧の児童書を中心に、翻訳を手掛ける。訳書に『三ルとのふしぎな旅』（セルマ・ラガルフ、ほるぷ出版）、『おじいちゃんの口笛』（ウルフ・ラタルク、ほるぷ出版）、『おじいちゃんがオオカミになったわけ』（キム・フォッグス・オーカソン、あすなろ書房）、『長くつ下のピッピ』（アストリッド・リンドグレーン、岩波書店）など。

この本を選んだ翻訳者

麥木晃子（翻訳家）

北欧の児童書を中心に、翻訳を手掛ける。訳書に『三ルとのふしぎな旅』（セルマ・ラガルフ、ほるぷ出版）、『おじいちゃんの口笛』（ウルフ・ラタルク、ほるぷ出版）、『おじいちゃんがオオカミになったわけ』（キム・フォッグス・オーカソン、あすなろ書房）、『長くつ下のピッピ』（アストリッド・リンドグレーン、岩波書店）など。

麥木晃子（翻訳家）

北欧の児童書を中心に、翻訳を手掛ける。訳書に『三ルとのふしぎな旅』（セルマ・ラガルフ、ほるぷ出版）、『おじいちゃんの口笛』（ウルフ・ラタルク、ほるぷ出版）、『おじいちゃんがオオカミになったわけ』（キム・フォッグス・オーカソン、あすなろ書房）、『長くつ下のピッピ』（アストリッド・リンドグレーン、岩波書店）など。

〈西遊記 上〉 いまだにコミックスや映画など様々な形に翻案されている不朽の名作です。主人公たちのわくわくするような冒険や妖怪変化との戦いをを楽しんでいくうちに、仏教と道教という中国文化の精髄を深く理解することができます。できれば上中下三巻をまとめて楽しんでもらいたいと思います。

〈西遊記 上〉 いまだにコミックスや映画など様々な形に翻案されている不朽の名作です。主人公たちのわくわくするような冒険や妖怪変化との戦いをを楽しんでいくうちに、仏教と道教という中国文化の精髄を深く理解することができます。できれば上中下三巻をまとめて楽しんでもらいたいと思います。

〈名探偵カッレ 地主館の罠〉 『長くつ下のピッピ』で知られるリンドグレーンが手掛けた児童向け探偵小説「名探偵カッレ」シリーズの第二弾。穏やかな町に起きた殺人事件。遊びも謎解きも、カッレたちの活躍が、きらきらとまぶしい。

〈名探偵カッレ 地主館の罠〉 『長くつ下のピッピ』で知られるリンドグレーンが手掛けた児童向け探偵小説「名探偵カッレ」シリーズの第二弾。穏やかな町に起きた殺人事件。遊びも謎解きも、カッレたちの活躍が、きらきらとまぶしい。

〈名探偵カッレ 地主館の罠〉 『長くつ下のピッピ』で知られるリンドグレーンが手掛けた児童向け探偵小説「名探偵カッレ」シリーズの第二弾。穏やかな町に起きた殺人事件。遊びも謎解きも、カッレたちの活躍が、きらきらとまぶしい。

〈名探偵カッレ 地主館の罠〉 『長くつ下のピッピ』で知られるリンドグレーンが手掛けた児童向け探偵小説「名探偵カッレ」シリーズの第二弾。穏やかな町に起きた殺人事件。遊びも謎解きも、カッレたちの活躍が、きらきらとまぶしい。

この本を選んだ翻訳者

横山和江（子どもの本の翻訳者）

訳書のうち絵本は『サッ・キレアがいるよ』（サッ・キレアリー、福音館書店）、『ジュリアンはマーメイド』（ジェシカ・ブランクス作、岩波書店）、『ブランカ・リンの空とぶ絵本』（ジェシー・キャンベル、BL出版）、『300年まえの青馬』など。読みものは『キャラメル色のわたし』（エミリー・ジャンキンス、あすなろ書房）、『ロン・ビレイ、鈴木出版）、『ペネロペの魔物たち』（ジョン・ベニ、メルヴィン・ワルシアーノ、偕成社）など。やまねこ翻訳クラブ会員。

この本を選んだ翻訳者

宮坂宏美（翻訳者）

訳書に『ジュリア・モーリスとなかまたち』（メーガン・ワクトル作、小峰書店）、『ゆうれい作家はおおいそがし』（リー・ケイト・ウラノフ、ほるぷ出版）、『ノエル先生としあわせのクッキ』（ジュリー・モルガンスターン、共訳、講談社）など。やまねこ翻訳クラブや読書推進作文コンクール事務局でも活動中。

この本を選んだ翻訳者

横山和江（子どもの本の翻訳者）

訳書のうち絵本は『サッ・キレアがいるよ』（サッ・キレアリー、福音館書店）、『ジュリアンはマーメイド』（ジェシカ・ブランクス作、岩波書店）、『ブランカ・リンの空とぶ絵本』（ジェシー・キャンベル、BL出版）、『300年まえの青馬』など。読みものは『キャラメル色のわたし』（エミリー・ジャンキンス、あすなろ書房）、『ロン・ビレイ、鈴木出版）、『ペネロペの魔物たち』（ジョン・ベニ、メルヴィン・ワルシアーノ、偕成社）など。やまねこ翻訳クラブ会員。

この本を選んだ翻訳者

宮坂宏美（翻訳者）

訳書に『ジュリア・モーリスとなかまたち』（メーガン・ワクトル作、小峰書店）、『ゆうれい作家はおおいそがし』（リー・ケイト・ウラノフ、ほるぷ出版）、『ノエル先生としあわせのクッキ』（ジュリー・モルガンスターン、共訳、講談社）など。やまねこ翻訳クラブや読書推進作文コンクール事務局でも活動中。

〈キャラメル色のわたし〉 ピアノの練習に打ち込んでいる11歳の主人公の日常が描かれていますが、背景は複雑です。両親が離婚したため黒人の父親と白人の母親の家を1週間ごとに行き来しているせいです。さらに学校で黒人差別事件が起き、否が応でも黒人としての現実をつきつけられます。少女の目を通したアメリカの実情が垣間見れる作品。

はじめての海外文学
vol.6
Book
児童書部

〈キャラメル色のわたし〉 ピアノの練習に打ち込んでいる11歳の主人公の日常が描かれていますが、背景は複雑です。両親が離婚したため黒人の父親と白人の母親の家を1週間ごとに行き来しているせいです。さらに学校で黒人差別事件が起き、否が応でも黒人としての現実をつきつけられます。少女の目を通したアメリカの実情が垣間見れる作品。

〈「グラフィック版」アンネの日記〉 アンネの隠れ家での食事は？ お風呂やトイレは？ そんなこまかいことも、この本なら絵を通してよくわかります。日常の生活がいきいきと伝わってくるだけに、突然の幕切れがいっそう胸にせまります。原作に忠実でありながら、画家の想像力の豊かさも感じられる、アンネ・フランク財団もおすすめの一冊です。

はじめての海外文学
vol.6
Book
児童書部

〈「グラフィック版」アンネの日記〉 アンネの隠れ家での食事は？ お風呂やトイレは？ そんなこまかいことも、この本なら絵を通してよくわかります。日常の生活がいきいきと伝わってくるだけに、突然の幕切れがいっそう胸にせまります。原作に忠実でありながら、画家の想像力の豊かさも感じられる、アンネ・フランク財団もおすすめの一冊です。